



落石・多重衝突事故の車両からの救助訓練を行う消防隊員



県の防災ヘリコプターで、中州から救助者をつり上げる訓練



万が一のときと同様に災害対策本部を設置。シナリオはなく、入ってくる情報を整理し、避難指示や救助などの指示が出された（写真上）。外国人の避難誘導を行う（写真下左）。清音福祉センターに開設された避難所での炊き出し訓練（写真下右）

「学ぶ」

■自主防災組織の防災訓練



上三輪地区自主防災組織は11月13日、常盤公園で防災訓練を行い、火災への対応を市の消防職員から学びました。

訓練には、会員約60人が参加。内藤琢之会長の「防災への意識をしっかりとってほしい」とのあいさつで始まり、初期消火の訓練に取り組みました。

■建築面からの防災対策を紹介



おかやま建築5会+1まちづくり協議会は11月19日、東日本大震災復興イベント「がんばろう東日本！そして～岡山の防災を考えよう～」を常盤公園と常盤幼稚園で開催しました。住宅の耐震化やリフォームなどの相談会をはじめ、防災用品の展示、液状化現象やハザードマップについて考えるワークショップなどが行われました。また、「住まいの耐震改修」と題した講演も行われ、訪れた人たちは建築面からの防災対策を学んでいました。



自衛隊による倒壊家屋からの救助



災害救助犬による救助者の捜索



救護所での応急手当



メールマガジンでの防災情報の発信や情報収集・整理を行う災害対策本部（写真左）。災害対策本部の設置を伝える訓練の防災メール（写真右）



訓練から



防災

万 一の地震災害に備え市や県、警察、消防、自衛隊、災害救助犬の日本レスキュー協会など13団体から約400人が参加し11月20日、清音河川敷グラウンドと清音福祉センターで防災訓練を実施しました。訓練は、市内で震度6弱の地震が発生し、家屋の倒壊や負傷者が発生したとの想定。各種の被災情報を基に災害対策本部が、清音福祉センターへの避難所の開設をはじめ、防災メールの配信、被災状況の確認、警察や自衛隊への出動要請などの指示を出す実戦的な訓練を行いました。

落石・多重衝突事故の車両や倒壊家屋からの人の救出、炊き出し、応急救護処置、地元住民による初期消火などの訓練も実施。また、地震による液状化が激しいとの設定で、避難指示の出た清音上中島地区の住民が、開設された避難所に歩いて避難（このページの写真）。市では、実際に体験し、感じたことを今後の防災に役立ててほしいと考えています。

訓練を振り返り市長は、「想定外を想定内にしなないと市民を守れない。強い気持ちをもってやっていこう」と、関消防長は「万一に備え、対応能力の質を高めるため、きめの細かい訓練を継続的に行っていく。市民の皆さんには、自助や共助に取り組んでほしい」と講評しました。

問い合わせ 総務課行政係 ☎8218